

事業所における自己評価総括表

○事業所名	チャイルドステーションつうゆう		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 7日		～ 令和8年 1月 21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30人	(回答者数) 26人
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 7日		～ 令和8年 1月 14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数) 5人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 10日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日常的に保護者と連携を行い、子どもの現状の課題、強み、特性などを共有、理解をした上でその子に適した支援を行っている点。	支援を行った際に気になる行動や言動があった際は、都度職員間でその情報を共有し、対応についてを検討している。	年1～2回の保護者アンケートを実施し、意見を反映した改善サイクルを確立する。
2	適切にアセスメントを行い、本人・家族が納得できる支援につなげる。アセスメントに基づき、専門性が高く、効果的な支援を行うようにしている。	保護者や関係機関からの情報、本人の観察、知能、言語や発達等に関する検査を行い、できるだけ客観的で正確なアセスメントを心掛けている。実際の支援では、本人の希望を大いに取り入れて意欲的に取り組めるようにしている。	今後は適応行動のアセスメント(Vineland IIの活用)もを行い、家庭、保育園・幼稚園・認定子ども園・学校とも連携して、効果的な支援をしたい。
3	利用者の方が施設を利用する際に、質問やご意見があった場合職員が丁寧に説明し、場や機会を提供し、迅速に対応している。	保護者の方に常に不安がないように丁寧に対応することを心掛けている。特に見学時や利用契約をする際には十分な時間を取り利用者の方が納得できる説明をするようにしている。	初回面談や契約時に「利用ガイドブック」を作成・配布し、利用者が安心してサービスを理解できる体制を整える。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所の建物古い、設備も同様にやや古く、段差を取り除くなどのバリアフリー化が追いついていない。	建物自体も大きく、どこまでがバリアフリー化されていないか把握しきれないことや、修繕費が非常にかかってしまうため。	子どもたちが安心して施設を利用してもらうために、見積もりを立てながら、少しずつ改修していく。また簡易スロープの設置や手すりの追加、段差に色テープで注意喚起などの小規模で費用のかからない改善から着手していく。
2	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等は策定され、保護者にも周知・説明されているが発生した際の訓練の実施や、玄関口の防犯対策が不十分。	訓練についての具体的な内容、日時などをどうするかの話し合いを職員間でする時間が取れず実施に至っていない。玄関は「入ってこないだろう」という意識の甘さがあった。	年間訓練スケジュールの固定化し、訓練内容のテンプレート化を進める。玄関の防犯強化はインターホンの設置はされているので来訪者の記録簿の導入玄関の死角をなくすレイアウト変更を行うなどして対策していく。
3	関係する保育園・幼稚園・認定子ども園・学校との連携を作っていくことはややできてきている。他方、地域に知られていくこと、地域の住民や子どもたちとの交流はほとんど取り組まれていない。	関係する保育園・幼稚園・認定子ども園・学校との連携は、相手方からの要望もあって自然に作られつつある。他方、保護者の意向もあるだろうから、単純に何かイベントを企画して地域と交流したらいいという単純なことではないと思う。無理なく地域の方々に受け入れていただく方策がまだ思い浮かばない。	経営母体のNPO法人が、地域の障害者福祉事業所の送迎のポイントとして駐車場を利用してもらったり、系列の相談事業所を通じて他の児童発達支援や放課後等デイサービス事業所とかかわりを持ったりしている。また、看板の設置、ホームページの開設などで、地域の方々に理解していただきたい。これらを通しながら徐々に地域とかかわりをつけていきたい。